

「所沢市無形民俗文化財 重松流祭囃子」講演会

2023-12-11 記 佐野弘太郎

講 師 第8代重松流祭囃子保存会会長 小峯勝次氏

1. 日時 2023年12月5日(火)13:30~15:30

2. 会場 中央公民館学習室8,9号室

3 参加人員: 26 名

① 沿革

重松流創始者古谷重松（じゅうまつ）は、1830年（天保元年）所澤村植宿に生まれた。養子先の古谷源衛門は味噌麴の製造と染料の藍玉を手広く商っていたので重松は藍の葉の集荷に各地を歩いた。西多摩郡の五日市（現あきる野市）まで足を延ばした。重松はいつも平井川の河原で一服し、好きだった笛を吹いた。いつしか、その音色に魅了された村の若者たちが教えを乞うようになり、「じゅうまりゅう」と呼ばれるようになり西多摩郡日の出町、五日市町に伝承された。

② 所沢地区における伝承

重松は帰宅後、自由時間に頼まれて、安松や秋津方面へも出稽古に出かけた。各所で熱心な若者たちが待っていた。その子孫たちが伝統を受け継いで今日に至っている。

③ 重松流の特徴 : 柔軟性を持った囃子

決まった譜を持たず、すべて口伝で、基本の太鼓はあるが、その時の雰囲気であたっているうちに、即興的に自由に変奏していくことで、これを「チラシ」といい、ジャズ的手法がうけている。

④ 所沢市内の祭囃子の団体

三流派（うち重松流 25 団体他 2 流派 2 団体）

⑤ 市内の山車（だし）

元町本町（明治6年建造）他全 13 台

うち市指定有形文化財 3 台

- ・御幸町
- ・元町本町
- ・有楽町

⑥ 楽器

篠笛

太鼓

擦り鉦

⑦ 保存活動

幕末、時代の変換期に、所澤村に生まれた古谷重松という天賦の才能に恵まれた青年が編み出した祭囃子が当時の若者たちに受け入れられ、重松流として今日まで伝承されています。

1967（昭和42年）「重松流祭囃子保存会」が結成され16町内・地域の囃子連500人余りの方々が各地で後継者の育成に努めておられます。小峯会長も20代から50年以上にわたって保存活動に携わり、最寄りの星の宮会館で子供たちの指導に当たっておられます。

講演終了後、埼玉県作成の重松流のDVDを見せていただき、映像と音声によって一層理解が深まりました。

「まとめ」

郷土で生まれた芸能・無形文化遺産を保存・育成・伝承してこられた先人たち、そして現在携わっておられる方々に感謝申し上げます。

私たちも、それぞれの立場から声援・協力して行きたいと思います。

以上

担当 B グループ（茂出木正和・中村静子・岡戸房子・佐野弘太郎）



笛・太鼓・鉦の軽快なリズムの重松流祭囃子で繰り出される山車

2023年10月8日<ところざわまつり>より